

マンスリータイムズ

和歌山県立新宮高等学校
平成27年度(2015年)12月版

主権者教育 ～ 責任ある一票を ～

12月15日(金)、来年6月に公職選挙法改正施行(選挙権年齢が18歳以上へ引き下げ)を受け、3月に卒業をひかえた3学年全員を対象に雨郡義和教諭による主権者教育を実施した。

本校卒業生は、主に進学、就職のために地元を離れることが多い。そうした状況を踏まえて、文部科学省から配布された副教材『私たちが拓く日本の未来』を活用しながら、以下三点を本授業の柱とした。

- ①有権者として、若者が政治に参加する大切さを知る
- ②地元を離れ、有権者となる現在の高校3年生が投票方法の多様さを知る
- ③模擬投票を通じて、自分が有権者となって投票することの重みを体感する

これらを理解するため、まず現在の年齢別の投票率や、先日の大阪府知事選についての例を挙げ、現在の日本の投票についての現状を紹介した。また、ネット投票や、海外にいる場合の投票などについても説明し、最後に仮投票を行った(仮投票については総務省のホームページの資料を引用)。生徒達の中には、投票所入場券(投票権を引き換える券)が自宅に届くということを知らない生徒も多く、簡易的にはあるが仮投票を行ったことが印象に残った生徒が多くいた。なお、2学年では本年7月に県下でも先陣を切って、「総合的な学習の時間」で主権者教育の授業をすでに実施した。今後、1学年でも来年度の実施に向け計画 중이다。



2学年が研修旅行へ ～ 異なる文化や自然、級友達との友情! ～

2学年が、12月11日(金)から15日(火)の4泊5日で、南九州地方への研修旅行を実施した。研修旅行は、自分たちの住む地域とは異なる文化や自然に出会うことや日常の学校生活とは異なる非日常の世界での体験、未知なるものと出会う絶好の機会であり、また、その体験を通して高校生活の楽しい思い出を作る機会であるのみならず、自分自身の価値観を見直したり視野を広げたりする機会でもある。

生徒達は、旅行中に九州の自然・文化・歴史・産業などにふれる中で、自分自身の社会的視野を広めるとともに、九州と自分たちの住む和歌山県・熊野地方の風土を多面的に比較し、それぞれの地域のすばらしさや独自性について気づき学ぶことができ、そして、級友達と寝食を共にすることで、友人たちの新たな魅力を発見し、友情が深まったと確信している。



宇井大和君が米遠征へ ～ 全国高体連レスリング国際交流 ～

3年の宇井大和君が「日本・米国高校生レスリング国際交流事業」でアメリカワシントン州に遠征する一員に選ばれた。1月3日(日)の団結式を経て、4日(月)から15日(金)までアメリカワシントン州に遠征し、現地の高校生と試合や練習などを通して交流する。

～ 空手道部・レスリング部が近畿大会へ! ～ 体育クラブ大会成績

11月7日(土)・8日(日)の両日、県高校空手道新人大会が那智勝浦町体育文化会館で開催され、女子団体組手で谷 夢月・本館優果・谷口かすみが3位、女子個人組手で谷 夢月が3位に入賞し、近畿高校空手道大会への出場を決めた。また、11月13日から15日にかけて本校武道場で開催された県高校レスリング新人大会において、55キロ級に出場した中西敦也、60キロ級に出場した太田夏歌が2位に入賞し、近畿大会出場権を獲得した。

～ 学び続けることで、未来を切り開く! ～ 冬休み前のAS



12月24日(木)、冬休み前のASを実施した。その中で、畑校長は3学年に向け「センター試験を受験する生徒は、進路決定のラストスパート。ここからが進路本番である。3月の後期試験が終るまでは決して諦めないで下さい。進路決定者は卒業後の新たな環境で力が発揮できる準備をする期間である。高校での学びを復習して整理し、検定に挑戦するなど、心して望んで下さい。」と、1・2学年には「学ぶことなしに、未来を語ることはできない。学習を中心とした生活リズムを確立して下さい。」と述べた。また、全校生徒に「世界に目を転じると、テロや難民問題、地震災害が起こっています。人類社会も自然環境も大きな転換期を迎えている。君達は、不透明な社会で激動の時代を生きなければならない。そのためには、目の前の現実を冷静に判断し、知性的に考える必要がある。私達のまわりで起こっている多面的なことは、高等学校の学びに含まれている。学ぶこと、学び続けることによって、未来を切り開く力をつけて下さい。今、君達は、学ぶ環境にいるのですから。」と講話した。